

森林限界の上

標高 2,500m になると、乗鞍岳の植物は劇的に変化します。この標高を越えると、木はなくなり、代わりに低木のようなハイマツの吹きさらしの茂みが山頂を覆います。この転換点は森林限界と呼ばれ、遠くから見ると山肌にくっきりとした線が伸びています。森林限界を超えると、高山の世界が始まります。

高山の植物や動物は、厳しい環境に適応しています。猛烈な風が吹き、太陽光が増えることで乾燥した環境になります。水は非常に少ないです。ある種の植物は、葉をしっかりと巻いて水分を節約するように進化してきました。ハイマツのように成長速度が遅く、1年に数センチしか伸びないものもあります。また、特に小さな花を咲かせる種は、短い生育期間を有効に使うために、雪解けと同時に生命を吹き込みます。ある週は、まだ雪に覆われていても、次の週には岩の上に花が咲き乱れます。

雪解け水は乗鞍岳の各峰の間のクレーターに溜まり、高山植物の多くはこの湿った場所に集まってきます。その花粉を求めて昆虫や他の花粉交配者が集まり繁栄し、その昆虫たちを求めて鳥が低地から飛来するのです。高山帯で最も有名な鳥類であるライチョウは、年間を通して生息しています。ライチョウは、ハイマツの厚い層の下に隠れて餌をとります。裸石の上には丈夫な高山性のコケが付着しています。

乗鞍の山頂を目指すバスは、バス停を出発して約 30 分で森林限界に到達します。